

人・もの・ことに豊かに関わる児童・生徒の育成

—「国際理解」「言語活動の活性化」を考慮した実践を通して—

前チューリッヒ日本人学校 教諭

高知県南国市立日章小学校 教諭 清久博文

キーワード：国際理解、言語活動、インタビュー活動・ニュース番組づくり（国語科）

1. はじめに

チューリッヒ日本人学校は、スイス連邦のチューリッヒ州にある自然環境豊かなウスター市内に設立されている。ウスター市の言語はドイツ語圏にあたるが、英語もよく通じる。そのような環境のもと、小中一貫校で少人数の良さを生かし、アットホームな雰囲気の中で国際感覚を養い生きる力を育む教育に取り組んでいる。

子どもたちは、ドイツ語を週に2時間学習しており、外国語を身につけようとする意欲も高い。そこで、実際に地域社会に出て自らの意思で外国語を話したり、スイスの方と積極的にふれあっていこうとしたりする機会を通して、「人・もの・ことに豊かに関わっていく力」を育成したいと考えた。

そこで、次の2つのアプローチをもって、児童の力を伸ばしたい。

- ①人やものとのふれあいを深めながらスイスの文化にふれる場面をつくり、互いの文化のよさに気づかせ、外国文化や人に積極的にかかわっていこうとする態度を養うこと。
- ②その活動で自分が感じたことや考えたことを整理し、それを的確な言葉で書いたり話したりする表現能力を高めること。

2. 活動の実際

(1) 活動名 「工夫して発信しよう～ニュース番組をつくらう～」

(2) 活動について

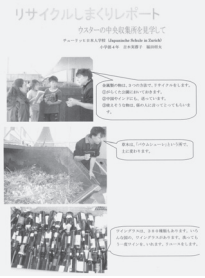
①ねらい


スイスの生活の中から題材を見つけ、インタビューや取材、調査活動を通して、ニュース番組を制作・発表することで、自分の考えを発信する。その一連の活動を通して、コミュニケーション能力、自分の考えを明確にもつ力、編集能力、言葉を大切にしたい表現力を養う。



②学習活動の展開と支援

段階	教科	単元名	○ 活動内容 ● 児童生徒の様子	◎ 支援・手だて
既習	小4 (社会) ☆昨年度	ごみ収集所に見学に行こう	○ごみ収集所の見学を通して、スイスのリサイクルシステムを知る。 ●ろうそくやコルク等スイスならではのリサイクルの発想に感動していた。 ○見学で学んだことをレポートにまとめる。	◎ごみについての学習の発展として、ウスターのごみ収集所の見学活動を取り入れる。 ◎何をどのようにリサイクルしているかをあらかじめ予想させ、見学で印象に残ったりサイクルの仕方が事後でクローズアップされやすいように示唆した。

			<ul style="list-style-type: none"> ●『リサイクルしまくりレポート』と題して、収集所のリサイクルの仕方や感じたことをパソコンで工夫しながらまとめた。 ○レポートを発表する。 ●レポートの効果的な発表の仕方を考え、保護者の方にわかりやすく発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎見学を通して驚いたことや共感したことなどを問い、自分の意見を大切にレポートにまとめるよう助言した。
事前	小5 (国語)	インタビュー名人になろう	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に応じたインタビューの仕方やマナー、回答をさらに深めていく質問の仕方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎回答に対してさらに質問することを「つつこみ質問」と題して、ロールプレイングで活用することを助言する。
事中	(国語)	伝え合って考えよう ★(資料『ごみ問題ってなあに』)をもとに考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ○『ごみ問題ってなあに』を読み取り、ごみ問題に対する自分の考えをまとめる。 ●スイス人のごみに対する意識は高いだろうか、調べてみたいという発言があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ごみ問題の深刻さとその背景にある人の意識を焦点にあて、読み取りの指導をする。 ◎昨年の「ごみ収集所の見学」を話題に出し、スイスのごみ意識はどうだろうかと問いかける。
	(国語)	★ごみ収集所へアンケート調査に行こう	<ul style="list-style-type: none"> ○スイス人のリサイクル意識がつかめるような質問内容を考え、アンケートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎事前に、ごみ収集所の係の方にアンケート調査をすることを依頼し、承諾をとっておく。 ◎既習の『ごみ問題ってなあに』で話題になったことや知りたいことを整理し、質問内容を吟味する活動を取り入れる。
	(授業外で) (読書タイム) (国語)		<ul style="list-style-type: none"> ○知り合いの方をお願いして、質問や挨拶をドイツ語に訳していただく。 ○ドイツ語担当の先生に、ドイツ語の発音をチェックしていただく。 ○毎日の家庭学習でドイツ語の練習をする。国語科の授業の最初に発表し、互いにチェックし合う。 ○取材場面を想定し、聞き役と答え役に分かれたロールプレイングをする。人とのかわり方で大切なことを確かめ合う。 ●成功場面と失敗場面を想定して、役になりきって楽しく活動した。ロールプレイングをすることで、会話表現の課題が明確になり、それへの対応策を話し合うことができた。 ○「スイス人5名以上にアンケートに答えていただく」ことを目標に、調査に臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎協力していただく方への依頼とお礼の挨拶を大切にしよう助言する。 ◎ネイティブの先生と連携して、ドイツ語での調査に自信をもって臨めるよう示唆する。 ◎実際に起こりうるだろうコミュニケーション上の会話表現や失敗場面、困る場面等を児童に想起させる。ロールプレイングすることで、相手の立場に立った交流ができるように促す。 ◎自己紹介→相手の都合を伺う→アンケートに答えてもらう→お礼という一連のプロセスを基本とおさえることで、礼儀正しい交流が行えるよう示唆する。

		<p>●初めは躊躇していた児童だったが、2人で励まし合いながら活動していた。1人目のアンケート調査の成功を一緒に喜び合い、それをきっかけに自信をもって次の交流相手を探していた。結果、目標にしていた5名からのアンケート回答を2人とも達成することができた。</p> <p>○アンケートの回答を日本語訳にし、回答者のリサイクル意識をつかむ。</p>	<p>◎目標を持たせることで、調査意欲を高める。</p> <p>◎児童の積極的な姿勢を賞賛し、自信をもたせる。</p> <p>◎電子辞書などを使いながらできるかぎり自力で訳すよう促し、わからないところを助言する。</p> <p>◎スイス人のリサイクル意識の高さに対する児童の驚きを大切にする。</p>
事後	<p>(国語) 目的に応じた伝え方を考えよう ★説明文『ニュース番組作りの現場から』より、ニュース番組作りで大切なことをつかもう</p> <p>(国語) ★ニュース番組を作り、発信しよう</p> <p>(業間 休み)</p> <p>(国語) 学習をふりかえろう</p>	<p>○自分たちがニュース番組を作るために必要な事柄を、時間の順序にしたがって段落ごとに読み取る。</p> <p>●ニュース番組には全体を貫く発信者の意図やねらいがあることに気づく。</p> <p>○自分たちの驚きや感動を拾い、ニュース番組の主題(最も伝えたいこと)を決める。</p> <p>●「スイス人のリサイクル意識の高さ」を主題に設定し、日本人も見習うことが大切であることを発信者の願いに位置づけた。</p> <p>○組み立て表を作成する。</p> <p>○原稿作り、スタジオでの撮影を行う。</p> <p>○映像や写真などの素材を編集、加工し、仕上げる。</p> <p>○「ニュース番組上映会」の案内ちらしを作り、校内でPRする。</p> <p>○「ニュース番組上映会」を開催する。</p> <p>●会場設定や進行も自分たちで意欲的に行った。</p> <p>○観てもらった人に、評価カードを配布し、記入をお願いする。</p> <p>○「ニュース番組上映会」で、伝えなかったことがしっかり伝わったかどうかをふりかえる。</p> <p>○学習で自分たちが培ってきた力について話し合い、今後の展望をもつ。</p>	<p>◎ニュース番組の製作のしかたや意図をつかみやすいよう、時間ごと、役割ごとに整理しながら、段落ごとの要旨を指導する。</p> <p>◎必要に応じて既習内容をふりかえり、番組制作のヒントとする。</p> <p>◎実際のニュース番組を見せることで、番組づくりのイメージ化をはかる。</p> <p>◎スタジオでは、キャスターとアナウンサー役を設定し、主題に沿った自分たちの感想や意見を含んだ原稿をつくるよう示唆する。</p> <p>◎朝の会の時間に、各学級でPRする機会をいただく。</p> <p>◎評価カードには、「伝えたいことができるか」をふりかえることができるような評価項目にすることを助言する。</p> <p>◎一連の学習で自分たちにどのような力がついたか、問いかける。児童の感想を聞き、学習のねらいが達成されたかを検証する。</p>

③「学習をふりかえって」児童の感想

○私は、このニュース番組づくりを通して、いろいろな力がついたと思います。

その一つは、現地の人と積極的にふれあう力です。取材する前は少しこわかったけれど、実際に取材をしてみると、現地の人がやさしくアンケートに答えてくれたのでうれしかったです。勇気をもってつき進めば、新しい力がつくんだと感じました。

もう一つは、「伝えたいことを中心に書く力」です。ニュースづくりのときに、原稿やアンケートの質問を一から考え、良い説明や質問の文ができました。そういう経験があって、文集「とんがりぼうし」の作文で以前より

伝えたいことがスラスラと書けたので、その力がついたと思います。

④成果と課題

【成果】

- ◎小学4年時（昨年度）の学習の延長上にこの学習を据えたことは、ごみ問題という地球的課題に対しての児童の意識に深まりをもたせた。昨年度のレポートで取り上げたスイスのリサイクルシステムが、スイス人の意識に支えられたものだったという気づきにつながった。それに対して、ごみ問題に対する日本人の意識について自分たちの意見をもつことができた。
- ◎現地の方にアンケート調査を行うにあたって、ドイツ語担当のネイティブの先生に協力してもらったことが児童の励みとなった。
- ◎アンケート調査でスイスの方とふれあえたことがよい体験となっている。スイスの方のリサイクル意識の高さとあたたかさにもふれたことは、国際理解の気持ちにもつながってくるだろう。人とかかわりの中で学ぶ喜びを感じ得たことが、児童の感想にも表れていた。ふれあいのよさを感じ、今後の交流活動にも前向きになれる。
- ◎視聴者の立場に立ってニュース番組の原稿やテロップの言葉を吟味したことは、言葉を研ぎ澄ます経験になったのではないだろうか。
- ◎「ニュース番組上映会」には全校の児童生徒と先生方が観に来てくださったので、児童は取り組みに達成感をもつことができた。また、年下から年上まで様々な人からの評価カードを通して、視野の広いふりかえりをすることができた。結果的に、小規模校の特色を生かす活動となった。

【課題】

- アンケートの質問や挨拶のドイツ語訳を知り合いの方に依頼したが、できるだけ自分たちで取り組ませたい。ただ学習段階や時間に限界があるので、ドイツ語教員との連携や翻訳ソフトなどを使うことも今後は考えられる。
- ビデオ編集に時間がかかった。編集作業にはこだわらせたいが、時間を生み出す工夫が必要である。

3. おわりに

今、新しい教育課程となり、「言語活動の充実」が叫ばれている。また、外国語活動にも力が注がれるようになってきた。そのような変遷の中で、この3年間のチューリッヒ日本人学校での取り組みは、これからの教育実践の大きなエネルギーとなるものであり、私の宝物でもある。それは、スイスの方のあたたかさや共に研究してきた同僚の熱意、そして常にバックアップしてくださった大使館、学校運営委員会の方々の協力があったからこそ成り得たものである。チューリッヒでの経験を日本の子どもたちに還元することが恩返しになることと信じて、これからの教育実践に励みたいと思う。